

「コモンディーズに真に精通する」とは？

鋪野紀好

千葉大学大学院医学研究院 地域医療教育学／千葉大学医学部附属病院 総合診療科

総合診療医に求められる資質・能力とは何であろうか？ その1つには、「総合的に患者・生活者を診る」ということがあげられる。このなかには、「患者中心の医療」「包括的統合アプローチ」「連携重視のマネジメント」「地域志向アプローチ」など、多彩な能力が含まれる。これらは良質な医療を提供するために必要不可欠な能力であるが、その基盤として備えるべきは「一般的な健康問題に対応する診療能力」であることを強調したい。総合診療医は特定臓器にとらわれず、生物・心理・社会的要因に関わる無数の疾患と対峙する。時には患者から、「私は何の病気なのでしょう？」と問われることがある。その時に「いえ、うちの科ではないですから…」と答える時の苦しさは、患者はもとより、それを言う医師にも共通することだ。プライマリ・ケアの最前線で診療に従事する者にとって、「診断する」という能力はその幹にあるべき能力なのだ。

では、その「診断する能力」を身につけるには、どうしたらよいだろうか？ その近道が「コモンディーズに精通する」ことである。「シマウマ探し」という名言があるように、コモンディーズはその名のとおり、日常診療で高頻度に遭遇する疾患である。いきなり稀な疾患を考えるより、まずはコモンディーズを想起しアプローチ



することは、限られた診療時間のなかでも効率的に質の高い医療を提供するために必要不可欠である。

ただ、ここで述べている「コモンディーズに精通する」というのは、その疾患のよくある臨床症状や経過を理解することに留まらない。コモンディーズに真に精通するには、発症ごく初期の「非特異的症状」から「非典型的症状」に至るまで、その“イルネスクリプト”を幹から枝葉までの確に理解することが求められる。病初期や非典型的症状であっても、適切な診断を想起し、タイムリーに診断からマネジメントにつなげられることは、患者アウトカムの改善のみならず、増加する医療費の問題にも資すると考えられる。

そこで本特集では、問診や身体診察を中心とした「臨床推論」にこだわり、“コモンディーズ”のイルネスクリプトを幹から枝葉まで理解し、アップグレードすることを狙いとした。34名の卓越した総合診療医によるコモンディーズの症例提示を基盤に、「診断に合致する点／合致しない点」を検討し、診断エラーに陥る“バイアス”から脱却するための方略、疾患仮説を想起するための「Semantic Qualifier」など、コモンディーズを真に理解するために必要な実践に基づく思考プロセスが凝縮されている。本特集を今後の日常診療に役立てていただきたい。

